



あしたかホーム秋の利用者作品展

## 「福祉との出会い」

みはるの丘浮島 施設長

長田 直樹

今年四月より、みはるの丘浮島の施設長に就任しました長田と申します。平成十五年に中途採用で入社し

今年で二十年目を迎え、二年目からみはるの丘浮島開設に合わせてデイ、シヨート、ケアマネ等の在宅サービスの仕事をさせていただきました。経験年数はベテランかもしれませんが、施設長としてまたわからない事も多く課題もコロナ感染予防、人材確保と育成、安定運営等、山積していますが、中でも人材確保が一番の課題です。職員の入れ替わりは様々な理由がありますが、働きやすい職場環境を整えて長く働いてほしいと思います。

福祉の仕事に就いたきっかけは、同居していた祖母が認知症になり家で介護した時に介護の仕事を知ったことからです。介護の仕事に興味を持った私は、当時福祉の仕事に就いていた高校の同級生に連絡を取り介護の仕事について話を聞き、子供の頃、同居の祖父母によくかわいがられた私は、安易に介護の仕事もできそうだと思います。妻に転職の相談をしたら、本当にできるか心配される、今の仕事をやめてまで転職する

ことを押し切れず、一度は見合わせました。

その後、転職した時に近くにあったデイケアに休日を利用してボランティアとして介護体験をした時に、ヘルパー2級研修を紹介され、働きながら資格を取れたことで妻も転職に賛成してくれました。そして、法人の採用試験を受け平成十五年に就職することが出来ました。初めは、伊豆中央ケアセンターに一年お世話になり、初心者の方に介護の仕事を優しく親切に教えていただきました。みはるの丘浮島に異動後、利用者が元気に楽しくサービスを利用してくれることに、営業職では味わえない喜びを感じました。高齢になると誰もが、老化に伴い体力も衰え物忘れなども出てきます。その中で少しでも元気に暮らせるお手伝い出来ることは本当にやりがいある仕事だと思っています。この介護の「人」を支え守る仕事は、人を思いやる気持ちが必要になります。自分も含めて職員は、思いやりを持って、仲間と協力し合い、仕事をしたいと思っています。

# 第1回 EPA介護職員研修会



～介護の仕事がもっと  
働きやすくなるために～

春風会では現在、EPA介護福祉士候補生、技能実習生、インターシップ生など、四施設にて十五名の外国人介護職員が勤務をしています。特に、EPA介護職員は九名が在職しており、介護福祉士国家資格の取得に向けて介護業務だけでなく、日本語学習にも

の整備が不十分な状況です。今年度法人では、EPA介護職員を中心とした外国人介護職員向けの研修とEPA介護職員をサポートする研修責任者も含めた研修を企画し、十一月四日に第一回目の研修会を行いました。

日々奮闘中です。EPA介護職員は、インドネシア、フィリピンの方ですが、ミャンマーからの技能実習生やベトナムからのインターシップ生など外国人介護職員の受け入れ経路は多様化しています。現在在籍しているEPA介護職員のうち四名は入職して三年が経過し、年明けの介護福祉士国家試験を受験します。春風会では、法人研修部会において、新人職員研修を始め中堅職員研修、幹部職員研修と階層別に研修体系を構築し、職員のキャリア形成の支援を行なっています。しかしながら、各種研修が専門的な介護・医療用語を用いた日本語ベースで行われる研修が主体であるため、EPA等の外国人介護職員に向けた研修カリキュラム

## 日本に来て感じたこと

研修会では、「日本に来て良かった」「日本の介護を勉強出来て良かった」「日本を好きになりたい」「もっと働きやすくなりたい」というEPA介護職員の思いに込めるため、意見交換を行いました。



(進行役) 深沢施設長  
「日本はどのような国だと思っていましたか？」

クリス 「日本人はマジメな国民であり、日本はきれいで静かな国というイメージを持っています」  
ティン 「日本人は時間を守りマジメな国民であると思っています」  
アンディカ 「日本人は優しく親切で良い国であるというイメージでした」  
ヘマ 「自販機が多く治安の良い国でゴミ箱がなくても街にゴミは無くモラルが高い国民だと思

います」

EPA介護職員の多くは日本に対し、きれいで安全な国、食べ物がおいしい国というイメージを持って来日し、日本人のマジメさや勤勉さ、モラルを守る国民性に驚いたと言います。

深沢施設長 「日本に来て困ったことはありましたか」

プトゥリ 「例えばゴミを捨てるにも回収日が決まっていたり、分別回収などのルールがしっかりと決まっています。様々なルールが有り理解するのが大変でした」

リスカ 「日本語は同じ言葉でも言い回しが複数あつて難しい。「話す」という言葉だけでも「会話する」「語る」などの言い方があり、そのニュアンスの理解が難しい。また方言もあり言語面は大変苦労しています」

川口 「私たち研修責任者も日々の指導の中で介護の専門的な知識だけではなく普段の日常生活におけるルール等についても理解してもらえよう指導をしています。そこには言語の壁がありますが、私はスマホの翻訳アプリを活用し、インドネシア語、



タガログ語などに翻訳してコミュニケーションを取っています。正しく伝えることの大変さを痛感しています」

深沢施設長「日本の介護の仕事で難しかったことや困っていることはありましたか」

カーサ「お年寄りとのコミュニケーションで困りました。機械浴槽での介助は複数の職員が関わるので問題は無いのですが、個人浴槽での介助はお年寄りと一対一の支援です。何をどう話して良いか声掛けが難しいです」  
 クリス「私もコミュニケーションで困りました。利用者さんが小声や方言で話されると理解できませんでした。でも慣れて来ると日本の童謡などを教えていた

だき、今では一緒に歌を唄ってコミュニケーションを取っています」

アンディカ「言語コミュニケーションが十分にできないと仕事は難しくなります。申し送りでの伝達事項が理解できない時もありました。日本人スタッフ間では普通の会話も私たちには早口に聞こえ、一対一の会話であれば十分に説明してもらえますが、会議や申し送りはそれが難しいです」

久代「全体会議等での申し送り事項は、会議終了後にフォローをしてあげないと理解が出来ていないと思います。EPAの皆さんたちが何に困っているかをこちらが理解してあげないといけません」

深沢施設長「相手の立場に立って考えること、相手の事を知る事はコミュニケーションの基本でもあります。皆さんが日本の文化を学ぶように、私たちも皆さんの文化を知らないと思、相互トラブルの原因となると思、います」

### 今後の課題について

春風会では来春一月にフィリピンから一名のEPA介護職員が新たにブレイグあしたかに入職します。また、来年度には六名のEPA介護職員も来日する予定です。今回の研修会では、在職三年目のEPA介護職員から、「来日した当時の自分を思い出しました。何

も分からず身振り手振りでコミュニケーション取ったことを覚えています。だから今年来られた方たちの気持ちは理解できます。来日時の気持ちに帰り、介護福祉士試験に合格できるよう頑張ります」との言葉がありました。

春風会では統一された法人の外国人介護職員研修マニュアルはまだ整備されておりません。これまでの外国人受け入れの足跡を基に、外国人介護職員受け入れや研修に関するマニュアルの整備を進めると共に、在職しているEPA介護職員には介護福祉士国家試験に合格を促していただき、今後も来日される後輩たちの良きアドバイザーとして、また、EPA介護職員のトレーナーとして活躍をしていただきたいと期待をしています。



### EPA 研修会参加者 (ニックネーム)

- カーサ (フィリピン 12期 / あしたかホーム)
- ティン (フィリピン 12期 / あしたかホーム)
- クリス (フィリピン 13期 / あしたかホーム)
- ヘマ (インドネシア 12期 / プレーグおおひと)
- プトウリ (インドネシア 12期 / プレーグおおひと)
- アンディカ (インドネシア 14期 / めくもりの里)
- リアニ (インドネシア 12期 / みはるの丘浮島)
- リスカ (インドネシア 12期 / みはるの丘浮島)
- ヨランダ (インドネシア 14期 / みはるの丘浮島)

### 研修責任者参加者

- 渡邊富美子 介護課長 (あしたかホーム)
- 川口 和義 施設課長 (めくもりの里)
- 久代 円 介護リーダー (プレーグおおひと)
- 鈴木 治明 介護主任 (みはるの丘浮島)

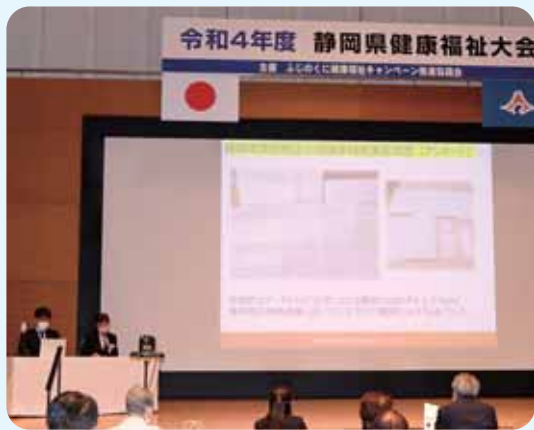
# 静岡県優良介護事業所表彰 「サービスの質部門」県知事表彰受賞

## 小規模多機能型居宅介護 プレীগエあしたか

静岡県健康福祉大会において、令和4年度静岡県優良介護事業所表彰が行われ、サービスの質向上部門にて、「小規模多機能型居宅介護支援事業所プレীগエあしたか」が静岡県知事表彰を受賞しました。今回の表彰は、小規模多機能において「在宅における看取り支援」を実践し、新たな小規模多機能の役割についての取り組みが評価されたものです。

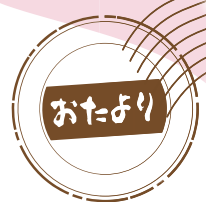
小規模多機能は「泊り」「訪問」の各サービスを活用して施設利用時だけでなく在宅でもサービスを展開する役割を持ちます。それに加え、24時間体制での訪問支援が可能であることは特色の一つでもあり、利用者、職員との「馴染みの関係」の構築が重要となりますが、今回はそのご家族までを巻き込んだ馴染みの関係づくりにも取り組み、より良い看取り支援に繋げることができました。

小規模多機能における看取り支援の実態調査では、全国的なデータからは病院や特養などの入居系施設においての看取りは年々増加傾向であ



り、「在宅における看取り支援」はあまり進んでおらず、静岡県東部地区の小規模多機能の実態調査においても在宅での看取りはわずか8%とまだ少ないことが分かりました。看取り介護には在宅医や訪問看護などの医療との連携をはじめ、ご本人を中心としたチームが必要です。チームワークを大切に「その人らしい当たり前の暮らし」を支援できるように、更には看取りを含めた介護サービスの質の向上に努めて参りたいと思っております。

## あしたかホームでの看取りケアを受けて



長年にわたり在宅・施設サービスをご利用されておられましたご遺族様からのお手紙を頂きました。今後職員の見守りもさせていただきます。

母が生前、あしたかホームの皆様には、デイサービスに始まりショートステイ、そして入所とおよそ十年に渡り、大変お世話になりました。ありがとうございました。

シヨートの頃、自宅でも母が転倒し、私一人では母を起き上がらせることができず、途方に暮れていたところ、ホームから職員さんが飛んできて下さり、お陰で母は無事起き上がる事ができました。また、毎月母の様子を手紙で知らせて下さったユニット職員の皆さんありがとうございました。コロナ禍で面会に行けない時も送られてくる手紙と写真で安心することができました。面会に行くこと職員の方からいつも笑顔で接して頂きました。感謝すべきことが数え切れません。主治医の方から四月二十日に余命宣告を受けてからは、いつかこの日が訪れることは分かっていたのですが、その頃に比べ食事量も少しずつ戻

り、体操にまで行けるようになり、状態が良くなっているように思いました。それゆえ、面会制限により家族の面会ができなくなる事になり、しばらく面会ができなくなるといふ期限の日に母は息を引き取りました。今にして思えば家族に会うことで生きる気力を繋いでいたのかもしれないと思えました。コロナ禍で面会制限のある中で、いろいろとご配慮いただきました。お陰で家族と最期のひと時を過ごすことができました。

ホームの皆様には手厚い介護をしていただき、お陰で母は本当に安らかに旅立っていくことができました。八月二十二日、葬儀も滞りなく済ませることができました。長く続くコロナ禍、いつも以上に神経を使われることと思えます。皆様もどうかお身体をご自愛ください。本当にありがとうございました。

令和四年九月二十三日





十月五日（水）伊豆の国市長岡中央公民館「あやめ会館」にて、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となっていたふれあいの集いを、三年ぶりに開催することができました。

「ふれあいの集い」は、法人の障がい部門の交流事業として、平成二十年より始まりました。近年は地域住民の皆さんの障がい者への理解をより一層深めるとともに、障がい者の方が多いの方とのふれあう機会と捉え企画をしています。しかし一昨年よりのコロナ禍の現状を踏まえ、地域住民の皆さんやボランティア・ご家族にはお声掛けせず、さらに時間や参加人数の縮小・基本的感染防止対策の徹底を行い、規模を縮小して、法人内施設のみを集まりとしました。

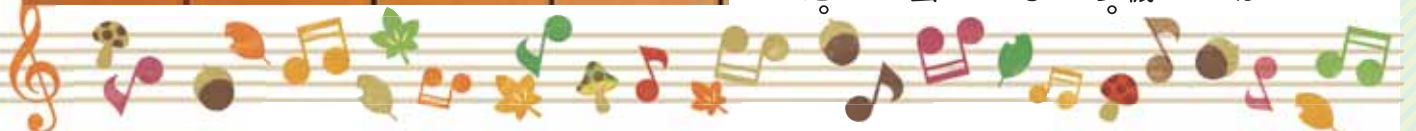
当日は各施設、歌やダンス・楽器演奏が発表され、自施設の出番では緊張しながら練習の成果を発揮しました。また、他施設のあつと驚くような仮装に拍手を送り、思わず一緒に歌い、踊りだしてしまふ利用者もいて、笑顔があふれていました。さらに、プラムバンドによる演奏では、「幸せなら手をたたこう」を全員で歌い、一体感を味わいました。

来年は、今年度を参考にしてもっともっと利用者や参加した方々の笑顔輝く「ふれあいの集い」になるよう企画していきたいと思えます。



### 参加した利用者の声

- ・いつも出ているけど、楽しかった。
- ・ほかの施設の人と交流する機会を作ってくれてありがとう。
- ・歌やダンスをもっと一緒にしたかった。
- ・久しぶりに、いろんな人に会えてよかった。
- ・緊張したけどおもしろかった。







# 介護職員初任者研修 介護職員実務者研修 講座開講

地域における介護人材育成と  
地域介護力の向上に向けて+

私たちの福祉・介護現場では、年々介護人材が集まらない状況が顕著となり、更にコロナ禍の中で一段と人材不足が深刻化しています。高齢者介護施設では、介護人材確保のため様々な取り組みをしています。特に、介護職のイメージアップを図るため介護職の待遇改善を図ると共に、介護の仕事や介護の専門的業務と非専門的業務・周辺業務、福祉クラーク等の仕事にすみ分けをして、周辺業務では元気な高齢者や障害者、未経験の主婦層を積極的に採用し、介護現場を支えていただけてきました。また、外国人をEPA、技能実習・特定技能制度を活用して介護人材として積極的に採用してきました。特に、外国人介護人材は法人全体で三十名近く採用しております。しかし、大切なことは日本人自身の介護力、私たち一人ひとりが介護の知識や技術を習得し、家族での家庭内介護が少しでも可能となるように、また地域社会で介護を支え合う体制を構築していくためにも、地域の介護力の向上を図っていくことが何よりも重要であると考えています。

## 介護職員初任者研修 実務者研修の3地区 での同時開講

今年度、春風会では、沼津市、伊豆市、伊豆の国市の三地域において、それぞれ法人の特養ホームを会場として、地域の介護力を高め、地域において共に支え合う体制を構築していくことを目標に、地域住民を対象とした「介護職員初任者研修事業」を開催しています。特に、定年退職後の男性の方々をはじめ、夫婦で共に介護資格を取得してお互いに助け合うために高齢者夫婦での受講など幅広い地域の方々の参加をお願いしたいと考えました。今年度は準備期間も短かったこともあり、沼津地区会場は七名、伊豆地区会場は四名、伊豆の国地区会場には七名の地域住民の方々に参加をさせていただく事が出来ました。今後、受講修了者の皆さんが地域の介護力を支えるボランティアとして活躍していただく事や、介護職員として、また、ヘルパー登録をして空いている時間を利用して働いていただく事を期待しています。



介護職員初任者研修を受講し、

介護現場で働いている職員の中には、将来的には国家資格である介護福祉士資格の取得にチャレンジし、より専門的な業務に就く事を希望する職員も多くなります。法人では、例年、ユマニテク医療福祉大学校と連携し、あしたかホームを会場として介護職員実務者研修の講座を開講して来ましたが、特に、法人では職員の資格取得支援の一環として、受講者には受講料の半額補助を行うほか、スクーリング参加に関しては職務免除という形で勤務の一環として講習会参加できるような職員の負担軽減の支援をしています。

春風会では、これからもこれらの事業を次年度以降も継続して実施し、施設入居者や各種サービス利用者の介護支援だけでなく、地域全体の福祉力向上に貢献できるように努めて参りたいと思います。



# フレイルサポーター養成講座・フレイル予防講座

令和四年度、はら地域包括支援センターと片浜・今沢地域包括支援センターは沼津市が提唱する「フレイル対策推進事業」に取り組んでいます。

フレイル（虚弱）とは、年齢を重ねることで心身の活力（筋力・認知機能・社会との繋がりなど）が低下した状態を指し、フレイルを予防する為には「栄養（食・口腔機能）」「運動」「社会参加」をバランスよく行なう事が非常に大切で、フレイル予防は健康寿命を延ばす鍵となり継続していくことが必要です。

今年度は、フレイルサポーターを養成し、一自治体でフレイル予防講座を開催しました。令和五年度は、フレイル予防講座の開催場所を増やし、令和六年度は沼津市のバックアップから包括の主催へ移行し、地域に合わせたフレイルサポーター養成とフレイル講座を開催し、地域全体でフレイル予防を進めていく計画です。

## はら地域包括支援センター

はら地域包括支援センターでは令和三年度のフレイル相談件数が



一番多かった地区にスポットを当て、自治体の協力を頂き、六月二十八日にフレイルサポーター養成講座を開催し、六月二十九日、七月十四日、七月二十八日にフレイル予防講座を開催しました。

フレイルサポーターには自治会、沼津市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、ノルディックウォーキング愛好会、介護予防ボランティア、体操リーダーの方々に参加して頂きました。

令和五年度は、フレイル相談件数が二番目に多かった地区を、その後は浮島地区でのフレイル予防講座の開催を予定しています。

## 片浜・今沢地域包括支援センター

片浜・今沢地域包括支援センターでは、九月二十八日、十月五日にフレイルサポーター養成講座を開催し、十月六日、十月十二日、十月二十日にフレイル予防講座を開催しました。

フレイルサポーターには片浜地区で活発に活動を行っている「サークルしおかぜ」の皆さんを中心に、民生委員会、自治会、地区社会福祉協議会、圏域内事業所の皆さんに参加して頂きました。

令和五年度は、今沢地区で開催を予定しています。また、継続していくにあたり、より地域に密着して開催できるように、集会場単位で開催できるようにしていきたいと思っております。

今後、地域の将来の為に必要なフレイル予防活動を、フレイルサポーターに協力して頂き、着実に進めていきたいと思っております。



春風会は高齢者・障がい者・児童・幼児までの事業を行っておりますので、法人看護委員会では新型コロナウイルス感染症につきましては様々な対応が迫られました。

それぞれの施設での感染状況やその対応の情報を共有しながら感染予防を図ってきましたので、少し紹介させていただきます。

令和4年7月から爆発的な感染が始まった新型コロナウイルス感染症の『第7派』。各施設、脅威の変異株によって感染力の強さに直面することになりました。

そして医療ひっ迫により高齢者でさえも入院できず、施設でみていかなければならない状況で、介護士の不安と看護師の緊張の中、「これまでやってきた感染予防対策を徹底することに尽きる」と考えました。

手洗いやアルコール消毒、マスクの着用はかなり習慣化されてきましたが、忙しい業務の中で忘れがちなのが「換気」です。エアロゾル感染・飛沫感染の対策を同時におこなわなければなりません。オゾンエアクリアを購入し設置してありますがやはり空気がスムーズに流れるようにすることが必要です。定期的な窓の開閉・サーキュレーターや扇風機の使用等を工夫しました。

## 法人看護委員会

# コロナ対策の 取り組み



### ■ あしたかホーム ■

これまでに一人も入居者の陽性者が出ておりません。力を入れたことは初期対応がとても重要だと考え、マニュアルを見直しながら状況に合わせた対策を実践したことです。職員と利用者の関わった状況を把握し、必要な対策を判断しています。

### ■ みはるの丘浮島 ■

利用者が陽性になった時、濃厚接触者のピックアップや部屋割りに時間を要しました。また介護士の不安が強く今後はグリーンゾーンの対応マニュアルが必要だと思えます。

### ■ ぬくもりの里 ■

変異株なのか従来株なのか分からない中で、職員間の意識や対応の統一が難しく今後の課題を感じました。基本的感染対策に加え、黙食や3密を回避し感染予防に努めてきました。

### ■ 高尾園 ■

利用者が高齢者でないため、コロナ対策が長引き自由に動けないことに不満やストレスがたまってしまいます。力を入れたことは手洗い・うがいを徹底して職員が安全な状態で仕事ができるように心がけました。

### ■ 伊豆中央ケアセンター ■

コロナ陽性者が出てから、職員・利用者が次々に発生してしまう中で、次は自分が陽性になってしまわないか不安でした。認知症の利用者はマスク着用が徹底できず、対応に苦慮しました。また陽性者の対応はいつ急変するかとても心配でしたが、他職種連携を図り乗り切ることができました。

今回思ったことは、高齢者ケアでは触れ合ったり、そばに寄り添うことが大切で、ソーシャルディスタンスは難しいということです。また職員が感染してしまうと働き手が減少していき、残された職員の疲労が色濃くなっていきます。職員の思いや不安を吐き出せるような配慮が必要です。感染対策とメンタルケアを両立していくことが今後の課題だと考えます。



# 社会福祉法人春風会 決算報告書

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

## 法人単位事業活動計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位: 円)

### 法人単位資金収支計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

(単位: 円)

勘定科目	予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)
<b>事業活動による収支</b>			
収入			
介護保険事業収入	3,498,610,000	3,498,744,859	-134,859
老人福祉事業収入	25,978,000	25,995,227	-17,227
保育事業収入	283,496,000	284,381,758	-885,758
就労支援事業収入	15,280,000	13,404,128	1,875,872
障害福祉サービス等事業収入	336,659,000	336,813,814	-154,814
生活保護事業収入	223,544,000	220,062,823	3,481,177
その他の事業収入	30,213,000	30,462,800	-249,800
借入金利息補助金収入	246,000	245,000	1,000
経常経費寄附金収入	1,905,000	1,903,151	1,849
受取利息配当金収入	3,609,000	3,684,175	-75,175
その他の収入	10,537,000	9,837,195	699,805
事業活動収入計 (1)	4,430,077,000	4,425,534,930	4,542,070
人件費支出	3,155,210,000	3,120,039,557	35,170,443
事業費支出	654,849,000	633,464,905	21,384,095
事務費支出	303,033,000	272,165,892	30,867,108
就労支援事業支出	15,780,000	15,322,604	457,396
利用者負担軽減額	2,033,000	1,658,606	374,394
支払利息支出	651,000	650,000	1,000
その他の支出	4,209,000	3,731,330	477,670
流動資産評価損等による資金減少額	16,000	15,201	799
事業活動支出計 (2)	4,135,781,000	4,047,048,095	88,732,905
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	294,296,000	378,486,835	-84,190,835
収入			
施設整備等補助金収入	15,700,000	15,628,850	73,150
固定資産売却収入	480,000	434,800	45,200
施設整備等収入計 (4)	16,182,000	16,063,650	118,350
設備資金借入金元金償還支出	16,001,000	16,000,000	1,000
固定資産取得支出	48,664,000	48,321,649	342,351
固定資産売却・廃棄支出	695,000	528,440	166,560
ファイナンス・リース債務の返済支出	8,992,000	8,869,522	122,478
施設整備等支出計 (5)	74,352,000	73,719,611	632,389
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	-58,170,000	-57,655,961	-514,039
収入			
積立資産取崩収入	3,807,000	3,717,036	89,964
その他の活動による収入	500,000	500,000	0
その他の活動収入計 (7)	4,307,000	4,217,036	89,964
積立資産支出	284,077,000	259,963,600	24,113,400
その他の活動による支出	500,000	500,000	0
その他の活動支出計 (8)	284,577,000	260,463,600	24,113,400
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	-280,270,000	-256,246,564	-24,023,436
予備費支出 (10)	18,997,000	17,002,000	1,995,000
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-61,146,000	64,584,310	-125,730,310
前期末支払資金残高 (12)	1,550,422,915	1,550,422,915	0
当期末支払資金残高 (11)+(12)	1,489,276,915	1,615,007,225	-125,730,310

勘定科目	当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
<b>収益</b>			
介護保険事業収益	3,498,744,859	3,472,608,731	26,136,128
老人福祉事業収益	25,995,227	25,820,999	174,228
保育事業収益	284,381,758	303,872,987	-19,491,229
就労支援事業収益	13,404,128	14,263,389	-859,261
障害福祉サービス等事業収益	336,813,814	330,177,775	6,636,039
生活保護事業収益	220,062,823	236,389,991	-16,327,168
その他の事業収益	30,462,800	29,461,382	1,001,418
経常経費寄附金収益	1,903,151	6,900,453	-4,997,302
サービス活動収益計 (1)	4,411,768,560	4,419,495,707	-7,727,147
費用			
人件費	3,141,744,580	3,098,693,543	43,051,037
事業費	629,576,907	621,514,810	8,062,097
事務費	273,164,156	249,016,525	24,147,631
就労支援事業費用	15,551,081	16,443,790	-892,889
利用者負担軽減額	1,658,606	1,421,290	237,316
減価償費	309,049,927	318,839,038	-9,789,111
国庫補助金等特別積立金取崩額	-151,663,646	-159,893,940	8,230,294
徴収不能引当金繰入	0	15,201	-15,201
サービス活動費用計 (2)	4,219,081,611	4,146,050,437	73,031,174
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	192,686,949	273,445,270	-80,758,321
収益			
借入金利息補助金収益	245,000	355,000	-110,000
受取利息配当金収益	3,733,500	4,383,457	-649,957
その他のサービス活動外収益	9,837,195	9,868,293	-31,098
サービス活動外収益計 (4)	13,815,695	14,606,750	-791,055
費用			
支払利息	650,000	895,000	-245,000
その他のサービス活動外費用	4,577,682	4,513,764	63,918
サービス活動外費用計 (5)	5,227,682	5,408,764	-181,082
サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	8,588,013	9,197,986	-609,973
経常増減差額 (7)=(3)+(6)	201,274,962	282,643,256	-81,368,294
収益			
施設整備等補助金収益	15,628,850	15,628,850	0
施設整備等寄附金収益	0	642,400	-642,400
固定資産売却益	434,794	39,339	395,455
その他の特別収益	916,516	571,608	344,908
特別収益計 (8)	16,980,160	55,306,253	-38,326,093
費用			
固定資産売却損・処分損	909,891	307,902	601,989
国庫補助金等特別積立金取崩額 (除却等)	-20,479	-70,860	50,381
国庫補助金等特別積立金積立額	15,628,850	54,052,906	-38,424,056
その他の特別損失	12,284	0	12,284
特別費用計 (9)	16,530,546	54,289,948	-37,759,402
特別増減差額 (10)=(8)-(9)	449,614	1,016,305	-566,691
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	201,724,576	283,659,561	-81,934,985
前期繰越活動増減差額 (12)	3,807,993,981	3,868,818,473	-60,824,492
当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	4,009,718,557	4,152,478,034	-142,759,477
基本金取崩額 (14)	0	0	0
その他の積立金取崩額 (15)	0	117,000,000	-117,000,000
その他の積立金積立額 (16)	250,929,325	461,484,053	-210,554,728
次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	3,758,789,232	3,807,993,981	-49,204,749

### 法人単位貸借対照表

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

(単位: 円)

資産の部			負債の部				
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,786,806,733	1,714,231,760	72,574,973	流動負債	392,665,771	368,167,388	24,498,383
現金預金	1,085,151,388	1,020,859,311	64,292,077	短期運営資金借入金	0	0	0
事業未収金	617,153,011	617,791,528	-638,517	事業未払金	69,199,691	63,351,072	5,848,619
未収金	2,724,790	1,760,646	964,144	その他の未払金	10,727,792	8,534,075	2,193,717
未収補助金	77,327,576	69,637,950	7,689,626	1年以内返済予定設備資金借入金	13,500,000	16,000,000	-2,500,000
未収収益	0	0	0	1年以内返済予定リース債務	9,778,748	6,963,992	2,814,756
受取手形	0	0	0	1年以内支払予定長期未払金	0	0	0
給食用材料	0	0	0	未払費用	55,058,367	55,353,190	-294,823
商品・製品	275,932	312,230	-36,298	預り金	66,415	85,635	-19,220
仕掛品	0	0	0	職員預り金	36,039,186	35,852,147	187,039
原材料	320,589	224,161	96,428	前受金	111,536	111,536	0
立替金	0	0	0	前受収益	0	0	0
前払金	19,800	22,000	-2,200	仮受金	0	0	0
前払費用	3,833,647	3,639,135	194,512	賞与引当金	198,184,036	181,915,741	16,268,295
短期貸付金	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
徴収不能引当金	0	-15,201	15,201				
固定資産	8,368,536,036	8,347,779,845	20,756,191	固定負債	125,750,688	122,383,794	3,366,894
基本財産	4,768,624,000	4,989,041,796	-220,417,796	設備資金借入金	13,500,000	27,000,000	-13,500,000
土地	728,178,768	723,678,768	4,500,000	リース債務	28,469,832	16,192,150	12,277,682
建物	4,040,445,232	4,265,363,028	-224,917,796	退職給付引当金	81,280,856	76,691,644	4,589,212
その他の固定資産	3,599,912,036	3,358,738,049	241,173,987	長期未払金	0	0	0
土地	12,400,000	16,900,000	-4,500,000	長期預り金	2,500,000	2,500,000	0
建物	2,209,023	2,552,168	-343,145	その他の固定負債	0	0	0
構築物	150,526,937	168,695,931	-18,168,994	負債の部合計	518,416,459	490,551,182	27,865,277
機械及び装置	0	0	0				
車輦運搬具	9,047,974	8,616,681	431,293	純資産の部			
器具及び備品	125,035,725	128,222,746	-3,187,021	基本金	194,131,464	194,131,464	0
建設仮勘定	0	0	0	国庫補助金等特別積立金	2,535,267,166	2,671,525,855	-136,258,689
有形リース資産	21,305,500	19,891,804	1,413,696	その他の積立金	3,148,738,448	2,897,809,123	250,929,325
権利	3,355,369	3,757,168	-401,799	施設設備整備積立金	2,572,478,448	2,327,829,123	244,649,325
ソフトウェア	7,859,217	14,016,273	-6,157,056	施設整備等積立金	45,500,000	42,500,000	3,000,000
無形リース資産	16,943,080	3,264,338	13,678,742	人件費積立金	530,760,000	527,480,000	3,280,000
退職給付引当資産	81,280,856	76,691,644	4,589,212	次期繰越活動増減差額	3,758,789,232	3,807,993,981	-49,204,749
長期預り金積立資産	2,500,000	2,500,000	0	(うち当期活動増減差額)	201,724,576	283,659,561	-81,934,985
施設設備整備積立資産	2,572,478,448	2,327,829,123	244,649,325				
人件費積立資産	530,760,000	527,480,000	3,280,000				
施設整備等積立資産	45,500,000	42,500,000	3,000,000				
差入保証金	1,385,000	1,385,000	0				
長期前払費用	17,324,907	14,435,173	2,889,734				
その他の固定資産	0	0	0				
徴収不能引当金	0	0	0				
資産の部合計	10,155,342,769	10,062,011,605	93,331,164	負債及び純資産の部合計	9,636,926,310	9,571,460,423	65,465,887

社会福祉法人春風会の現況報告書・計算書類等は、春風会ホームページからもダウンロード出来ます。



## 子どもが主役の運動会!

コロナ禍の中で実施するのも3回目の運動会になりました。保護者の皆様の見学場所だけでなく、競技内容や練習、準備などにも感染症予防対策を考えながらの話し合いや計画が進みました。

様々な制約はあっても、「子どもが主役の運動会にしたい」という基本線は守りました。

運動会の華となる遊戯では、年少組は日頃から乗り物に興味をもっている子どもたちの興味を高めるため、バスの運転手をイメージした遊戯を表現しました。年長組と年中組は夏からずっと続けてきた活動を延長しながら「日本のお祭り」をテーマに遊戯を組み立てました。年中組は、「どんどこあばれ獅子」を力強く表現し、年長組は野菜のお神輿から打ち上げ花火を集団で表現しました。どの子どもも笑顔で演技を楽しんでいました。実生活では、しばらくお祭りとは遠ざかっていた保護者の皆様も子どもたちの演技から活気をもらっていたようです。

「伸び伸びと活動している姿を見て、成長しているなあ。この園に入れてほんとに良かったと改めて思いました。」

という声も届いて、保育者もニコニコ。

リレーや遊戯のように集団での決まった活動に不慣れで、なかなか皆と同じようには行動できない子どもたちにも、きめ細やかな支援と温かい応援をし続けた保育者たちの努力が認められた瞬間でもあります。

運動会の神様、今年もコロナに負けず、私たちに助けてくださりありがとうございました。



## あまぎ認定こども園

### 全力疾走

「3連休は3日とも雨予報」

ネットの十日間予報を見るとあまり芳しくない予報が並んでいます。去年も運動会の真っ最中に雨が降ってきたのを思い出し、「延期」の文字が脳裏をよぎります。夕方園舎を見回ると幼児のクラスには大小様々なる坊主がつるしてあります。「どうか子ども達の思いがお天気の神様に届きますように。」

「やったあ!降ってない」10月8日土曜日運動会当日は、暑くも寒くもない絶好の運動会日和(曇天)です。九月の夏休み明けから1ヶ月余り。毎日練習に取り組んで子ども達。その成果をお家の人たちに見てもらう日がいよいよやってきました。

コロナ禍で過去2回の運動会は学年ごと別々に行ってきましたが、今年は年少から年長までの3学年一緒の運動会が戻ってきました。

年長さんにとってはこども園最後の運動会ということでも力が入ります。オープニングのソーラン節から素晴らしい出来です。

そして楽しいときはあっという間に過ぎてフィナー

レのリレーです。

「どちらのチームもがんばれー」練習の時には失敗していたバトンパスも見事です。そしてゴール。負けてしまったチームのアンカーの子が涙を流しています。

すべての力を出し切ったからこそ流せるきれいな涙でした。





## ■ 絵画の寄贈 ～ 青木佳穂様より ～



みはるの丘浮島では多くの絵画が施設の壁を彩っております。中でも、画家の青木佳穂様にはおよそ二十年にも渡り作品を寄贈して頂きました。そして、今年八月に二枚の新作を頂きました。

様は、みはるの丘浮島へ絵画を寄贈して下さいます。現在は利用者だけでなく、来園者も、まるで小さな美術館を訪れたみたいだと楽しまれています。

事務所の前には、十年ほど前から千支の絵を展示しております。利用者は毎年鑑賞することを楽しみにしており、千支はあと二枚で十二支全て揃うという事もあり、心待ちにしている方もおります。

現在、青木様は東京美術館で開催されている創造展にも作品を出品されるなど活躍されています。

富士山と桜、富士山と松。どちらも富士山が描かれた作品ではありますが、印象はまったく異なり、桜の淡く柔らかい雰囲気と青々とした松の大きく力強い様子がそれぞれ魅力的です。

二十年ほど前、芸術は緊張や怒りを和らげ認知症の予防と改善の効果があるとして、芸術作品を取り入れ環境改善を図る施設や病院がありました。利用者が元気に過ごせるようにと、先代の理事長と交流があった青木



## ■ 絵画教室 ～ 利用者作品紹介 ～



に手ほどきを受けていました。今は各々、画材を決めてじっくりと観察し、緻密にダイナミックに、時にやさしく、おしゃべりすることもなく、絵画の世界に入り込み描き上げていきます。作品に、毎回ポエムを添える方もいます。完成した作品に新たな発見や色使いのやさしさ、そして何より純粋な心が表出され、私たちが心を癒されています。

今年度は十月九日・十日にアクシスカつらぎにて四年ぶりに開催された、第十八回伊豆の国市民文化祭に出品し、広く市民の皆様に作品を見ていただく機会に恵まれました。

これから、この「画伯たち」の感性あふれる作品をお届けしたいと思います。



ぬくもりの里玄関ホールに、サポートセンター絆利用者の描いた作品が、飾られています。新作との交換を心待ちにしているファンもいると聞いています。

サポートセンター絆の地域活動支援センターでは、伊豆の国市に住んでいる障がいを持つ方の仲間作りや憩いの場として交流を図っています。活動は料理教室・音楽活動・カラオケ・創作活動がありますが、のんびり過ごされる方もいて皆さんの居場所として「絆」があります。

その中の、毎週木曜日の「絵画」の時間は、コロナ禍前までは、美術展に入選する実力のある方

## サポートセンター絆

## みはるの丘浮島

就労継続  
支援B型  
プラム

## 赤い羽根共同募金より送迎用自動車寄贈

広範囲に及び伊豆市の利用者にとって、送迎車は通所するための支えです。また、安心・安全に利用者を送迎するためには、送迎車の更新は欠かすことができません。このたびの助成により、購入できたこと心より感謝いたします。利用者の笑顔が、よりいっそう明るくなりました。「送迎車が新しくなって良かった」「安心したね」と利用者も大よろこびです。

赤い羽根共同募金に、ご協力いただいた皆様に感謝するとともに、大切に使用させていただきます。



あしたか  
ホーム

## はるかぜ落語会

令和4年7月17日(日)、あしたかホームデイサービス棟にて三年ぶりに沼津市出身の三遊亭朝橋様による『はるかぜ落語会』を開催しました。

当日、少人数ではありましたが、地域の方もお越し頂き、入居者、ショートステイ利用者の方々と一緒にご観覧頂きました。

今回の高座は、お酒にまつわる演目を披露して頂き、参加された方の中には合いの手を入れて落語を楽し

む方もいました。

入居者の方からは「久しぶりに大きな声で笑う

ことが出来た。」という感想も頂いております。

来年はより多くの地域の方々をお招きできることを目標に今後も地域のニーズに沿った地域貢献活動を企画し継続していきます。



あしたか  
ホーム

## 令和5年4月 定期巡回・臨時対応型訪問介護事業所 (看護連携型) 事業開始予定

あしたかホームでは、令和4年5月25日、第9次沼津市高齢者保健福祉計画に係る「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所」の事業予定者に応募し、採択をされ事業を開始することとなりました。

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」とは、日中・夜間を通じてサービスを受ける事が可能であり、

定期的な訪問だけでなく、必要な時に随時サービスを受ける事が可能な事業所です。24時間365日サービス提供を実施することで、住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう支援するサービスを提供して行きます。事業開始は、令和5年4月1日を予定しています。

●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1  
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304  
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29  
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1  
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL・FAX (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3  
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいデイサービス (デイサービス一般型)

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽根47  
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL (0558) 83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市立高156-1  
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地  
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか

小規模多機能型居宅介護支援事業所  
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1  
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9  
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス グループホーム なぎの家

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437  
TEL・FAX (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293  
TEL・FAX (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880

●あまぎデイサービス (デイサービス一般型)

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム (障害サービス)

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

●プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3  
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2414 伊豆市本立野531-1  
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●なかいず認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1  
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11  
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334